

平成22年度事業報告書

平成22年 4月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第108号発行

平成22年 4月22日 国際ソロプチミスト浜松に感謝状を贈呈

国際ソロプチミスト浜松認証30周年祝典に大石会長、武見副会長が出席し、長年にわたり当基金に貢献されたことについて感謝状を贈呈した。

平成22年 5月 初旬 「地球にやさしいカード」による平成21年度下半期の助成

㈱セディナからの「地球にやさしいカード」による平成21年度下半期の助成金が対象14団体に配分、送金された。助成金額は総額978万6千円で、配分方法は従来どおり総額の30%が各団体に均等配分され、残りの70%が団体ごとにカード利用実績に応じて配分された。助成は1991（平成3）年から続いており、累計で5億7,600万円を超えた。カード会員数は2010年3月末で2万783名となっている。

平成22年 5月13日 定款の目的・事業条文の精査に関するプロジェクトチーム（第1回）の開催

平成22年 5月28日 審議委員会を開催、基金独自の助成団体を協議

審議委員会を開催し、「泡瀬干潟大好きクラブ」を基金独自の助成団体とするかを協議した。

平成22年 6月 1日 平成21年度環境諸問題研究・活動報告書を発行

平成21年度環境諸問題研究・活動報告書を発行し、関係機関や関係者に配布した。その内容は、当基金が直接助成している、中国・陝西省銅川市南寺山緑化・水土流出防止事業及びタンザニア・モデル造林事業のほか、㈱セディナの「地球にやさしいカード」の助成金による「主要国および国連における効果的な地球温暖化防止対策の調査研究と日本の市民に向けた普及啓発」（特定非営利活動法人 F o E J a p a n）など14事業（団体）の平成21年度の研究活動状況を取りまとめたものである。なお、購入希望者には実費で頒布している。

平成22年 6月 2日 中国・陝西省对外友好協会（榆林市）一行が大石会長を表敬訪問

平成22年 6月12日 ゴスペル東京のチャリティコンサートで募金活動

ゴスペル東京主催の第11回チャリティコンサートが開催され、当基金もチャリティ活動に参加した。入退場時や休憩時間に、使用済みプリペイドカードや切手、書き損じハガキ、未使用切手などが多数寄せられた。この日募金箱に入れられた寄附金は9,792円、バッジ、ハン、タイピン、機関紙の売上は1万2,600円であった。

平成22年 6月17日 理事会及び評議員会を開催、平成21年度決算を可決・同意

理事会及び評議員会を開催し、平成21年度決算を審議し全会一致で可決・同意した。経常収益3,930万円（前年度3,873万円）、経常費用4,147万円（同4,1

88万円)、経常外収益0円(同8万円)、経常外費用50万円(同39万円)で、利益にあたる一般正味財産増加額は△266万円(△347万円)となった。また、30周年記念事業積立資産は33万円の評価損で1,482万円となった。退職給付積立資産は平成22年度より積み立て61万円を計上した。その結果、次期繰越金は216万円減少し492万円(同708万円)となった。

平成22年 7月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第109号発行

平成22年 7月 9日 定款の目的・事業条文の精査に関するプロジェクトチーム(第2回)の開催

平成22年 7月18日 タンザニア・キリマンジャロのモデル造林事業調査に職員を派遣

7月18日から8月27日にかけてタンザニア・キリマンジャロのモデル造林事業調査のため、職員1人を現地に派遣した。植林に取り組んだのはキリマンジャロ州6苗畑グループとアルーシャ州1苗畑グループの7グループで、植林本数は合計5万2,725本、このほかに村人や学校等に配布した苗木が3,011本、販売した苗木が3,970本あり、育苗総数は枯れ死した苗木756本を含め、6万462本であった。1月からの新年度の植林事業計画も立案され、前年度比約25%増の総計7万5,600本の育苗を行う予定である。今回の調査の主たる目的は、「村主導による植林活動に向けた仕組みづくり」「TEACA(タンザニア環境行動協会)の自立を目指したレンタハウスの建設」「裁縫教室の運営状況」である。

平成22年 8月 3日 定款の目的・事業条文の精査に関するプロジェクトチーム(第3回)の開催

目的・事業条文の精査に関するプロジェクトチーム(第3回)を開催し、定款の変更案及び規程案について最終チェックを行い、終了した。

平成22年10月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第110号発行

平成22年10月17日 中国・南寺山緑化事業が完了

10月17日から24日の8日間、大石会長など4名が、中国・陝西省銅川市南寺山緑化・水土流出防止事業完成式典への参列並びに中国における次期植林候補地2か所について現地調査を行った。

完成

式典が、10月19日に植林地の銅川市南寺山中腹で盛大に行われた。同式典では、劉先蓮陝西省外事弁公室副主任・対外友好協会副会長の挨拶に始まり、大石会長、銅川市副市長、銅川市王益区常務副区長の挨拶があった。続いて、「中日友好林記念碑」の除幕、記念植樹が行われた。2001年から2010年までの10年間に50ヘクタールに14万4,040本を植林した。この間の助成金は1,500万円に達する。

その後、次期植林候補地の「陝西省洛川県交口河鎮老河湾緑化プロジェクト」及び「青海省互助土族自治县高寨鎮西湾村緑化プロジェクト」を現地視察した。

平成22年11月 1日 審議委員会委員の辞任に伴う委嘱

審議委員会の近藤敏夫委員の辞任に伴い、大石会長は、新たに藤村範行氏(株セディナ・カード提携開発一部長)に委嘱した。

平成22年11月 初旬 「地球にやさしいカード」による平成22年度上半期の助成

(株)セディナからの「地球にやさしいカード」による平成22年度上半期の助成金が対象14団体に配分、送金された。助成金額は総額992万6千円となっており、配分方法は従来どおり総額の30%が各団体に均等に配分され、残りの70%が団体毎にカード利用実績に応じて配分された。助成は1991（平成3）年から続いており、累計で5億8,500万円を超えた。

平成22年11月24日 「地球にやさしいカード」による平成23年度助成団体選定のための審議委員会を開催

(株)セディナの「地球にやさしいカード」による平成23年度助成団体の選定のための審議委員会を開催した。8月1日から9月30日までの2か月間の応募期間中、新規6団体、継続13団体の計19団体からの応募があった。審議委員会では、応募団体からの申請内容等について慎重に審査した結果、継続9団体を助成団体に決定し、酸性雨問題研究会、東京農業大学沙漠に緑を育てる会、熱帯森林保護団体、立山自然保護ネットワークの4団体については本年度中に改めて事業の目的と必要性、手法と成果等について説明を聞いた上で最終決定することになった。なお、むさしの里山研究会が継続申請を取りやめ「トンボの保護区を守るカード」の助成対象団体がなくなることから、改めて同カードに相応しい団体を見つけることにした。このほか、基金独自の助成1団体を決定した。

平成22年11月25日 理事会が開催され、平成22年度補正予算案を可決、新評議

理事会が開催され、平成22年度補正予算案を審査し全会一致で可決した。同補正予算案は、昨今の経済情勢による収入の減少等により、当初予算の6万円の黒字から424万円の赤字が見込まれ、繰越金に余裕がなくなることから、「30周年記念事業積立資産」を100万円取り崩し、繰越金に繰り入れることとしたものである。これにより、「30周年記念事業積立資産」は1,482万円から1,382万円に減少する。

このほか、田名部匡代評議員の辞任に伴う新評議員に木村美里氏を選出したほか、副会長に涌井史郎常任理事を選定した。また、平成23年度助成団体を審議委員会決定のとおり、(株)セディナの「地球にやさしいカード」関係継続9団体、基金独自の助成1団体に決定した。

平成22年11月25日 30周年準備委員会を設置

平成24年10月の30周年記念行事を検討するため、「30周年準備委員会」が設置された。メンバーは涌井史郎副会長（座長）、石川美雅理事、土屋のり評議員の3氏に決まった。

平成22年11月26日 評議員会を開催し、平成22年度補正予算案に同意、新理事を選出

評議員会が開催され、平成22年度補正予算案を全会一致で同意した。また、生田光男理事の死去に伴う新理事に渋川文隆事務局長を選出した。

平成22年11月27日 第4回研究・活動報告会を開催

(株)セディナと協力して、「緑の地球をまもるために」の第4回研究・活動報告会（テーマ「生物多様性を考えるーCOP10を終えてー」）を開催した。第1部の基調講演では、涌井史郎当基金副会長・国際生物多様性年国内実行委員会（地球生きもの委員会）委員長

代行・東京都市大学環境情報学部教授から「環境革命の時代ー『生物多様性』を尊重したまちづくり『生態環境都市』を目指してー」の講演、第2部の活動報告では、八幡平の葛根田ブナ原生林を守る会から「楽しいブナ原生林ーブナ原生林を守ることは日本の自然を守ることー」、立山自然保護ネットワークから「立山連峰の自然を守る」、東京農業大学沙漠に緑を育てる会から「エチオピア中央部での砂漠化防止活動」の報告があった。

平成23年 1月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第111号発行

平成23年 1月17日 審議委員会を開催し、継続4団体の説明聴取と最終決定

(株)セディナの「地球にやさしいカード」による平成23年度助成団体の選定のための審議委員会を開催した。同委員会は、酸性雨問題研究会、東京農業大学沙漠に緑を育てる会、熱帯森林保護団体、立山自然保護ネットワークの4団体から事業の目的と必要性、手法と成果等について説明を聴取した後、来年度助成団体に決定した。また、新規応募団体である「桶ヶ谷沼を考える会」の「トンボの種の保全と自然環境を守る事業」を審査し、一部対象事業を修正したうえで来年度助成団体とした。

平成23年 1月21日 職員が国際ソロプチミスト浜松の例会で「タンザニア裁縫教室のその後」を講演

平成23年 2月 3日 30周年準備委員会（第1回）を開催

30周年準備委員会が開催され、30周年記念事業の日程、使用できる金額について事務局から説明を聞いた後、記念事業のあり方について議論を行い、その議論を踏まえ、次期理事会に中間的提案を行うこととした。

平成23年 3月 3日 理事会を開催、平成22年度予算案を修正のうえ可決

理事会を開催し、平成23年度予算案を審査し一部修正のうえ、全会一致で可決した。事業活動収入は3,755万円（前年度修正後3,532万円）、事業活動支出は4,256万円（同3,955万円）、事業活動収支は501万円の赤字（同353万円）、投資活動支出52万円、予備費50万円を加えると、603万円の赤字となる。この赤字の処理として、特定資産（30周年記念事業積立資産）を取り崩し繰越金に繰り入れることとした。

また、理事の常勤化に伴い「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程案」を全会一致で可決した。

(株)セディナの「地球にやさしいカード」の平成23年度助成団体の追加を審議委員会のとおり、継続4団体、新規1団体の5団体に決定した。この結果、「地球にやさしいカード」による平成23年度助成団体は継続13団体、新規1団体に決まった。このほか基金独自による助成1団体が決まっている。

平成23年 3月 4日 評議員会を開催、平成23年度予算案に同意

評議員会を開催し、理事会が修正した平成23年度予算案を審査し全会一致で同意した。また、理事の常勤化に伴い「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程案」を全会一致で可決した。

平成23年 3月 5日 タンザニア・キリマンジャロのモデル造林事業調査に職員を派遣

3月5日から3月25日にかけてタンザニア・キリマンジャロのモデル造林事業調査のため、職員1人を現地に派遣した。4月から本格化する大雨季植林の各村における実施計画立案及び準備推進を主目的とした。現在進めている「多地域間協力」の基に実施することとし、キリマンジャロ山の森林保護区境界に沿って存在する20を超える村々、当該地域で活動するローカルNGO、教会等の組織・団体を集め、大雨季植林について協議し、4月からキリマンジャロ東南山麓の標高1,700メートルにあるルワ村を主力地として実施が決まった。そのほか、レンタハウスの入居者募集方法、裁縫教室の運営状況の把握を行った。